

「共通語らしさ」と「関西弁らしさ」

——「ダ」と「ヤ」と「ネン」——

足立雅代

はじめに

人間がある言語表現を目にして、それを「古典語らしい」とか「女性語らしい」等といった「うらしい」と判断する（たとえその判断が誤りであるとしても）拠り所は、必ずしもその言語表現全体からであるというわけではない。その人間の持つ「らしさ」のスキーマ（Barrett一九三二等）を構成している典型例が、その言語表現に存在するか否かによって判断することも多いのである。

例えば、中世の「準中国資料」等に見える「仮名書」（足立一九九四）の「万都（松）」や「沙嬉（酒）」等の例に対して、

『漢和三五韻』（宇都宮由的・貞享三年（一六八六年）刊）等の韻書では、『万葉集』が出典であると記されてしまうような現象（足立一九八九）は、『万葉集』では一字一音節の音仮名や訓仮名等の万葉仮名が使用されている。」といった内容を含む「万葉仮名スキーマ」を当時の人々が持っていたことによるものだと考えられる。しかし、同じ「万葉仮名スキーマ」であっても近世の国学者の持っているものでは、『旧本伊勢物語』（建部綾足・明和六年（一七六九年）刊）の漢字の仮用に見られるように、当時の国学の研究成果を踏まえた明確な清音専用仮名と濁音専用仮名との書き分け（足立一九九〇）といった内容である場合もあるのである。又、同じく国学の研究成果を踏まえたもので、その文章が中古の成立であるという判断や、中古の

文章に擬らえた擬古文を記す為の拠り所となる「中古スキーマ」では、係結の呼応が重要な位置を占めるのである。(足立一九九三)更に、個別的な言語表現ではないが、中世のいわゆる「中世日本紀」(伊藤一九七二)や「中世万葉擬歌」(片桐一九八七)といった存在も、当時の人々の「いかにも『日本書紀』に記されているような話」とか「いかにも『万葉集』にありそうな歌」という意識を形成するスキーマによって成立するものと考えられる。

以前、筆者は、日本人がある単語に接した時に、それを「和語」であるか「漢語」であるか「洋語」であるかを判断するのは、その語源の出自に基づく「知識」ではなく、それを「和語らしい」とか「漢語らしい」とか「洋語らしい」とかと感じる「意識」であるという指摘(浜田一九六三)(定延一九九五)に基づいて、それらの事象認知のプロセスを考察したことがある。(足立一九九七)本稿では、「共通語らしい」表現や「関西弁(せし)らしい」表現であると判断する事象認知のプロセスで使用されるスキーマでは、「ダ」・「ヤ」・「ネン」等の文末表現が重要な役割を果たすことを述べたいと思う。尚、ここで考察の対象するのは、方言語形や方言的用法を共通語と思いついで用いる「疑似共通語」や「地方共通語」(陣内一九九二)

の例ではない。たとえそれが実際の「共通語」や「関西弁」とは異なっていたとしても、使用者が「共通語らしく」又は「関西弁らしく」表現する為に、各自の持つスキーマの構成要素のどの部分が働いているのかという問題の検討である。

一 文末表現「ダ」

「共通語らしい」文末表現、「関西弁らしい」文末表現のスキーマの内容を考察する前に、文末表現「ダ」の使用者層に關しての確認をしておきたい。

文末表現「ダ」・「ヤ」・「ジャ」の方言上の分布に關しては、(藤原一九六二)を初めとして、多数の論考が発表されている。その中に、関西方言「ヤ」の中国方言「ジャ」への影響を指摘しているものがある。(鎌田一九九八等)しかしそれは、総ての使用者層に当てはまるのではなく、中国地方の女性の間では、以前として「ジャ」が使われ続けられており、その理由は、関西方言「ヤ」に対応する共通語の女性の終止形「ダ」で終わる言い方が存在しないことによるものであるという考察がなされている。(友定一九九七)

そこで、ここでは、まず、共通語において、女性が終止形「ダ」

で終わる言い方をしないのかという問題について考えてみたい。

例えば、(遠藤・尾崎一九九八)では、小学校一年から三年の国語科教科書中の「ダ」の調査から、「ダ」の不使用者はほぼ女性に限定されるとしている。その一方で、実際の使用者のアンケート調査では、二十代の女性の「ダ」の不使用者は全体の約三割である。従って、教材の中では一昔前の言葉遣いの女性が多く登場しているのだと結論付けられているのである。

又、ドラマに登場する女性の文末表現について、「ダ」ではなく「ダヨ」に関してではあるが、脚本家北川悦吏子(以下敬称略)の次のような指摘がある。(北川一九九七)

さて、女の人(もしくは女の子)が「だよ」と言うようになったのは、いつからでしょう。私は、いつからかはつきりわかりません。

『東京ラブストーリー』からです。

東京ラブストーリーの保奈美ちゃん演ずる赤名リカからでした。

それまで、恋愛ドラマのヒロインは「かしら」でした。

…(中略)…

だから、東京ラブストーリーがオンエアされた時に、ああ、私にもラブストーリーが書けるかも…と思いました。それと同時に、世の女の子たちの「だよ」は市民権を得たと言っているでしょう。

そして、実際に、北川悦吏子は自身の脚本の中で、二九才の美容師という設定の女性のセリフに、次のように文末表現「ダ」を用いているのである。

やさしいからうまくいかないとは思ってないんだ。

『オーバータイム』p 33

ふーん、こんなの撮ってたんだ。

(同 p 194)

(下線部筆者)

確かに、若い女性の間で文末表現「ダ」がテレビのドラマ等の影響によって広く流布していった時期は、『東京ラブストーリー』が放送された一九九一年頃からであるという北川悦吏子の指摘は正しいと考えられる。(注2)しかし、厳密には、『東京ラブストーリー』の場合、柴門ふみの原作においても、赤名リカのセリフでは、次のように文末表現「ダ」が用いられている。

あ、そ！出世したいんだ。(『東京ラブストーリー』 p 79)

つまり、ドラマの表現は、この原作の影響を受けての表現であると考えられる。従って、コミックの世界では、更に以前から使用されていたものであると言える。

又、先の『東京ラブストーリー』程の社会的な影響はなかったものの、それ以前から、文末表現「ダ」がドラマで用いられている例は存在する。一九七九年に放送された『阿修羅のごとく』(向田邦子脚本)では、和服を愛用する四五才の生け花の先生という設定の女性のセリフに、

これ、油で揚げて、塩振るとおいしいんだ。

(『阿修羅のごとく』 p 28)

じゃ、お母さん、間違えてんだ。

(同 p 63)

といった文末表現「ダ」が用いられている。文末表現「ダ」の例として先に挙げた『東京ラブストーリー』や『オーバータイム』のような活動的な若い女性という設定とは、かなり異なる設定の女性のセリフの使用例である。

この脚本を執筆した向田邦子は一九二九年東京生まれで、父親の仕事の都合で地方と東京とを行ったり来たりしたもの、基本的には東京在住の人物である。従って、先のセリフは向田邦子自身の使用言語が反映されているものと考えられる。そして、(久世一九九六)によると、向田邦子は「じれったい」や「半ちく」等といった「半死語」をドラマの中で意識的に使用しようとしたということである。このことからわかるように、言語に関しては、かなり保守的な意識の持ち主であると考えられる。ここからも、共通語の文末表現「ダ」は、実際には、かなり以前から、女性の間で広く使用されていたのだと推測できるのである。

更に、先の(北川一九九七)で言われている文末表現「ダヨ」に対応する「カシラ」について、(渡辺一九九五)に興味深い指摘がある。そこでは、近年、若者(渡辺一九九五)では、三十代のキャリア・ウーマンとされているが)を中心として流布している「半疑問イントネーション」の例を「疑問的肯定」、もしくは、「疑問的同意要求語」と解釈されている。そして、その具体例として、次のようなものを挙げ、

源氏物語って、あまり好きじゃないの。だって女の人達が

みんな待っているだけでしよう。正妻の葬の上(？)彼女に
しても紫の上にしても、ただ源氏が来るのを待っているだけ
で、(以下略)

この「半疑問イントネーション」の箇所に「カシラ」を当ては
めて、次のように言い換えているのである。

(前略) 正妻の葬の上だったかしら、彼女にしても紫の上
にしても、ただ源氏が来るのを待っているだけで、(以下略)

「ダヨ」に関して、「半疑問イントネーション」に関して
も、「同意要求」という点では、共有する意味領域が存在する
と考えられる。従って、この「カシラ」の使用例も、(北川一
九九七)の指摘とは矛盾しないと言える。

しかしながら、渡辺淳一の小説の実作を調査してみると、三
七才の書道講師の人妻が、次のように文末表現に「カシラ」を
使用することがあっても、

そのうえ、結婚してからもずっと婦人と関係を続けて、皇
太子妃は、まるで三人で結婚していたようだ、といわれたけ

ど、あれはどういうわけかしら。

(『失業園』 p 130)

「ダ(ヨ)」や「半疑問イントネーション」を使用することは、
絶対にはないのである。(注³)

例えば、一九六一年生まれで、この女性とほぼ同世代である
(北川一九九七)では、「カシラ」に関して、次のような記述
がある。

さて、「かしら」です。私は、「かしら」は、生まれてから
三回くらいしか使ったことがないと思います。それも口が滑
った時のみ。普段はまるで使いません。(注⁴)

つまり、共通語における女性の文末表現に関しては、実際に
使用している女性と、観察する側の男性とでは、大きなギャッ
プが存在するのである。

以上のことから、共通語における女性の文末表現「ダ」は、
近年、広く一般的に使用されるようになったと意識された時期
よりも、かなり以前から、かなり広い範囲で使用されていたの
ではないかと推測できるのである。

二 「ダ」と「ヤ」と「ネン」

——ドラマのシナリオを中心に——

共通語の文末表現「ダ」と、それに対応する関西弁の文末表現「ヤ」について、ドラマのシナリオでは、どのように扱われているのかを考察したい。

考察するに際しては、同じ脚本家の手による共通語と関西弁とのセリフを比較検討することが最適であると考えられる。ここで扱う『ひとり暮らし』と『理想の結婚』の脚本家である青柳祐美子は、共通語圏である神奈川県横浜市の出身で一九七〇年生まれである。『ひとり暮らし』の主人公は東京出身の二六才の女性、『理想の結婚』の主人公は大阪出身で現在は東京在住の同じく二六才の女性という設定である。又、共に主人公を演じる常盤貴子は、小学校四年から高校一年までを兵庫県西宮市で過ごしており、関西弁に関しては、自身の言語として話すことができる人物である。このようなことから、共通語話者が「関西弁らしさ」を表現しようとする時に、言語表現のどのような部分に注意するのかということ調査する資料としては、かなり有効なものであると言える。

まず、『ひとり暮らし』の例から検討してみたい。この主人

公の女性の文末表現を調査してみると、年上の女性に対しては、

この間、実家に帰ったんです。(『ひとり暮らし』p 113)

と、丁寧表現として「デス」が使用されている。しかし、独り言の場合や親しい友人や恋人に対しては、次のように、

(独り言) もう、冬だ。(同 p 218)

(友人に) あのさ、私、謝ろうと思うんだ。(同 p 83)

(恋人に) いや、そんなに待ってたわけじゃないんだ。

(同 p 145)

と、「ダ」が基本的に使用されている。これは、前節で考察した同時代のドラマ中の女性の文末表現と矛盾しない現象である。

それでは、『理想の結婚』の場合は、どうであろうか。主人公の女性は、東京出身の婚約者の妹に対しては、次のように文末表現「ダ」を用いたり、

なんか、かわいい妹とお買い物って、憧れてたんだ。

婚約者の母親の友人達に対しては、丁寧表現「デス」を用いている。

親戚っていうか、今度、家族になるんです。(同 p194)

しかし、この発言に対しての母親の友人の次の発言からわかるように、

鞠さんって、ひょっとして関西のご出身？ちょっと、イントネーションが… (同 p194)

と、語形は確かに共通語であっても、(演じる人物が関西出身であることもあって)イントネーションは関西弁のそのものである。そして、独り言や自分の家族や婚約者等の身内に対しての文末表現は、基本的には「ヤ」を用いているのである。

(独り言) ああ、あたし、今、世界でいちばんシアワセや。(同 p8)

(父親に) お父ちゃんにこんなんしてもらって幸せになれへんかったら嘘や。(同 p236)

(母親に) お母ちゃん、それは映画の中の話や。(同 p293)
(婚約者に) 好きなもんは好きや。(同 p53)

この「ヤ」の用法は、『ひとり暮らし』の「ダ」の用法と矛盾しないものである。従って、共通語の文末表現「ダ」に対応する関西弁の文末表現は「ヤ」であるという意識が働いていることは明らかである。

例えば、男性の使用例であるが、婚約者の父親が、付け焼き刃の関西弁を話す場合であっても、

いやいや、鞠さんも立派なもんや。(同 p38)

と、イントネーションはともかくとして、文末表現の「ダ」を「ヤ」と置き換えることで、関西弁の語形であるとしているのである。

(真田一九九八)では、関西弁の文末表現「ヤ」は共通語の「ダ」と同じであるとしている。そして、共通語から関西弁に言い換えた例として、次のようなものを挙げている。

あつ、約束は一二時だつたんだ。

あつ、約束は一二時やつたんや。

新幹線だつたら、二時間半だ。

新幹線やつたら、二時間半や。

その反対に、関西出身の人間が共通語を話そうとする時には、イントネーションは関西弁のまま、文末表現「ヤ」を「ダ」に言い換えるだけといった場合が多い。次に、明石家さんまと上沼恵美子の例を挙げる。

今はこうなってるんだ。

ちゃんと子育てしてるんだ。

『さんまのまんま』一九九九年六月二二日放送

環境だ。

康恵ちゃんそこ、そうだったんだ。

『いつでも笑みを！』一九九九年七月十日放送

しかし、その受け手の側が、それを共通語である認識するとは限らない。例えば、明石屋さんまのイントネーションは関西弁のまま、文末表現だけは「ダ」と言い換えている、

何かいやなんだ。

あんまりウロチョロしないんだ。

といった発言に対して、対談相手の熊川哲也は、

ずっと、関西弁なのですか。

『さんまのまんま』一九九八年六月一六日放送

という疑問を投げかけているのである。

又、「ダ」に関連して、共通語の文末表現「ノダ」に対応する関西弁の「ネン」について考えてみたい。(真田一九九八)では、理由や説明を聞いたり、答えたりするときを使う共通語の「ノダ」は関西弁では「ネン・テン」になるとしている。そして、「ンヤ」と「ネン」、「タンヤ」と「テン」は、殆ど同じニュアンスで使用するとし、以下の例を挙げている。

結婚するんや||結婚すんねん(するねん)
合格したんや||合格してん

一方で、関西弁の「ネン」については、次のような指摘もある。(尾上二九九)

このように、「ねん」が帯びる気持ちは多様であり、詩の中には出て来なかったが、このほかにも「さっさとするねん」のような〈命令〉と呼ぶべき用法もある。〈告白〉〈訴え〉〈教え〉〈意思〉〈命令〉〈発見・認識〉〈再認識〉というような用法の広がりには、実は、共通語の「ノダ」にもあり、この点でも「ネン」はもともと「ノダ」と同じものなのだということが知られるが、もちろん、人はそのような用法の区別を一々意識することなく、その場その場で「ネン」に様々な気持ちを込めているわけである。

「ネン」は共通語の「ノダ」と同じ出自を持ちながら、「ノダ」より広く使われている。共通語で「…なのだ」「…するのだ」と言ってしまったては重たく、おしつけがましく感じられるような場合でも、大阪弁では「…やねん」「…するねん」

ん」ということが自然に言える。それは、「ネン」が「ノダ」とはちがって、ある種の表現姿勢を表すだけの終助詞のようなものに変質しているということでもあるが、そのような特別な助詞を必要とするほどに、大阪の人は「垣根をはずして、うちあけてものを言う。」という表現方法を愛用するということである。大阪の人の開放性のひとつの現れである。

例えば、『理想の結婚』でも、次のように「ネン」「デン」という文末表現もわずかであるが存在する。次に主人公の使用する全用例を示す。

いったい、あんたは何が言いたいねん!
(同 p 27)

でも、なんか、結婚ってそんな甘いもんっちゃうんやないか、そんな気がするねん。
(同 p 46)

それがな、イマイチ違うねん。
(同 p 78)

あたしらもう終わってんねんから。
(同 p 134)

…うわ、みんな何してんの?
(同 p 279)

だが、これらの例は、次の主人公の婚約者のでたらめな関西

弁の「ネン」とほぼ同じように、

そんなバカなことばかり言うたらあかんでまんねん。

(同 p 202)

機械的に文末に「ネン」を用いただけのものなのである。

先の(尾上一九九九)の「ネン」のある種の表現姿勢を表すだけの終助詞のような用法という点では、次のような文末表現

「ヤ」に関して、

…そうや、あたしの勘違いや!

(同 p 11)

そんなに続くなんて、あたしにとっては快挙や。

(同 p 17)

ただ、好きっていう気持ちだけや。

(同 p 17)

大事なのは気持ちや!

(同 p 53)

むしろ、「ヤネン」という文末表現の方が、関西弁としてはこなれた表現であると考えられる。

…そうや、あたしの勘違いやねん!

そんなに続くなんて、あたしにとっては快挙やねん。

ただ、好きっていう気持ちだけやねん。
大事なのは気持ちやねん!

しかしながら、このような「ヤネン」の例は、一例も存在しないのである。例えば、明石家さんまが、ふとした瞬間に口を滑らせてしまう関西弁では、

おれ、ちょっとシヨックやねん。

人に言えない成功って何やねん。

〔臨時発売!さんまのまんま大全集〕一九九九年八月八日放
送

ごく自然に文末表現「ヤネン」が用いられている。従って、(真田一九九八)で示されている文末表現「ノダ」を機械的に「ネン」や「テン」に置き換えるだけでは表現できない「ヤネン」のような文末表現は、関西出身以外の人間にとっては、かなり困難なものであると考えられる。

又、(尾上一九九九)の「ネン」に対応する「ノダ」の場合、その特性として、一般には、話し手自身の心情や個人的な事情を表現する披瀝性を持つとされている。(田野村一九九〇)こ

の「ノダ」の用法に対応する関西弁は、『理想の結婚』では、
総て、次のように「ンヤ」と、基本的に文末表現「ダ」を「ヤ」
に言い換えた形で表現されている。

〔a〕

泣きたいときに泣かんと、いつ泣くんや。

(同 p 18)

それでいいんや。

(同 p 53)

勉強と本気で結婚したいんや。

(同 p 73)

いかんでええって、あたしはいきたいんや。

(同 p 71)

何があっても、一生、いっしょにおるんや。

(同 p 75)

店に友だちかておるんや。

(同 p 74)

角曲がったところからでもブーンと海苔のええ匂いがして

くるんや。

(同 p 82)

もう離れへん、あたしら、だれよりも幸せな結婚するんや。

(同 p 274)

〔b〕

そうや、どうせあたしはアホなんや。

(同 p 15)

あたしは勉強が好きなんや。

(同 p 13)

計器に乱れて、こっちはケーキにナイフが入らへんかも

しれん瀬戸際なんや！

(同 p 291)

例えば、〔a〕の例に関しては、次のように「ネン」という
文末表現の方が、関西弁としては、こなれた表現であると考え
られる。

泣きたいときに泣かんと、いつ泣くねん。

それでいいねん。

勉強と本気で結婚したいねん。

いかんでええって、あたしはいきたいねん。

何があっても、一生、いっしょにおるねん。

店に友だちかておるねん。

角曲がったところからでもブーンと海苔のええ匂いがして

くるねん。

もう離れへん、あたしら、だれよりも幸せな結婚するねん。

これらは、文末表現「ンヤ」を機械的に「ネン」と置き換え
ればよいといった単純なものなのであるが、このように表現さ
れているものは一例も存在しない。

一方、〔b〕の例に関しては、

そうや、どうせあたしはアホやねん。

あたしは勉強が好きやねん。

計器に乱れて、こっちはケーキにナイフが入らへんかも
しれん瀬戸際やねん！

と、「ナンヤ」の文末表現の「ヤ」を「ナン」の前に移動させて、文末表現を「ネン」に置き換える必要がある。にも関わらず「ナンヤ」よりも「ヤネン」の方が、関西弁としては、こなれた表現であることは、関西限定発売のインスタントラーメンの名前に『好きやねん』というものはあっても、『好きなんや』というものがないことからわかる。特に、「b」の最後の例のように、「瀬戸際なんや！」と文末に感嘆符が必要とされるような強調表現の場合には、「瀬戸際やねん！」の方が、より確な表現であると言える。^(注5)

「ノダ」に関しては、スコーフの「ノダ」は、その前の部分を名詞化するために用いられるものであり、「ノ」+「ダ」という組成に近い機能を果たす(野田一九九七)という指摘がある。このことから考えると、関西弁を自身の言語として使用していない人間にとっては、「ノダ」を「ノ」+「ダ」に分解し

て、「ダ」を「ヤ」に置き換えるという単純な操作はできても、その「ヤ」の後に、再び「ノダ」に対応する「ネン」を接続することはかなり困難な作業であることがわかる。

更に、文末表現「ダ」を「ヤ」に置き換えれば関西らしい表現になるという意識があることを示す別の例もある。『理想の結婚』の主人公が、後に婚約者となる男性と初めて出会う場面のセリフに、次のようなものが見える。

あたしはダメや。涙が止まらん。

(同 p17)

『現代日本語方言大辞典』では、共通語では「ダメ」が、関西弁では「アカン」が、主に使用されているとしている。そして、「ダメ」の後の文末表現は、共通語の「ダ」や「デス」が用いられるのが一般的である。従って、この「ダメや」という表現は、共通語「ダメ」に関西弁の文末表現「ヤ」が接続したものである。例えば、文末表現「ジャ」を使用する地域である香川県丸亀市で、関西弁の文末表現「ヤ」が混ざった例として、

ソヤケド ボクヤコシ ダメヤ。

が、報告されている。(藤原一九六二)つまり、これと類似した共通語に関西弁の文末表現「ヤ」が混ざった例であると言えるのである。

『理想の結婚』の他の箇所では、主人公は母親に対して、関西弁で話す時には、

あ、それはあかんて。

(同 p 135)

肩持ったらあかんか？

(同 p 155)

なんであたしが謝らなあかんの。

(同 p 253)

と、「アカン」を使用している。一方で、共通語話者に対して、「ダメ」を使用する時には、上記の例以外は、総て、「ダメ」の後には、共通語の文末表現が用いられているのである。

それが、全然ダメなんです。

(同 p 38)

そういうのって、ダメなのかな。

(同 p 118)

めちゃくちゃがなばったけど、それでもダメだったって。

(同 p 232)

でも、その日は忙しいからダメだったって。

(同 p 257)

このことから考えると、先の「ダメヤ」の例は、共通語話者のつい筆が滑ってしまった例であるとも言える。だからこそ、共通語話者にとっての「関西弁らしさ」というのは、文末表現「ダ」を「ヤ」に置き換えればよいというものであることがわかるのである。

三 「ダ」と「ヤ」と「ネン」

— アンケートを中心に —

前節で検討した文末表現に関して、実際の使用状況はどのようなものであるか、アンケート調査を行った。調査したのは、兵庫県神戸市に所在する甲南女子大学文学部国文学科の学生の中で、『国語学入門』を受講している一回生三七名、二回生二九名、三回生四名の合計七十名である。又、この七十名の中で、共通語話者は三名、関西出身の非共通語話者は五八名、関西出身以外の非共通語話者は九名である。実施したのは、一九九九年六月二八日の四講時目の『国語学入門』の講義中である。内容は、前節で扱った表現について、実際に使用するか否か、その表現を耳にした時にどのような印象を持つか等といったこと

である。

まず、『ひとり暮らし』で使用された文末表現「ダ」について、次の例文を取り上げて、実際に使用するか否かを質問した。

私、謝ろうと思うんだ。

(同 p 83)

この文末表現「ダ」に関して、

- ① 実際に使用するか否か。
- ② 使用するとしたら、どのような状況でか。
- ③ 使用しないのなら、どのような表現を耳にした時にどのような印象を持つか。
- ④ 普段話す言葉使いならどうなるか。

という質問を行った。

まず、①のこのような文末表現「ダ」を使用するか否かにについては、

はい 十名 いいえ 六十名

という結果であった。

この「はい」と答えた十名の中で、共通語話者は三名、関西出身の非共通語話者は四名、関西出身以外の非共通語話者は三名である。又、②のどのような状況で使用するかと質問に對しては、非共通語話者の中では、「演技ぶって」(兵庫県神戸市出身)とか、「共通語で話す友人と話す時」(岡山市出身)といった回答があり、「共通語らしい」表現をしようとした時に使用されることがわかる。そして、④の普段の言葉使いに言い換えた表現としては、関西出身者の中で二名が、「私、謝ろうと思うねん。」と、文末表現「ネン」が使用され、「私、謝ろうと思うねん。」と、文末表現「ヤ」を使用した回答をした者はいなかった。更に、関西出身者の中には、「私、謝るつもりやねん。」(兵庫県神戸市出身)の文末表現「ヤネン」のように、前節で考察した共通語話者の手による脚本の関西弁のセリフでは、なかなか表現しきれないような回答もあった。

次に、「いいえ」と答えた六十名の中で、共通語話者は〇名、関西出身の非共通語話者は五四人、関西出身以外の非共通語話者は六名である。又、③のどのような印象を持つかという質問に對しては、「共通語のようだ。関西弁ではない。」(徳島市出身、兵庫県竜野市出身、大阪市出身等)といった内容の回答が、

全部で二九名あった。他にも、「セリフっぽい。」(兵庫県宝塚市出身)や「マンガの世界のようだ。」(佐賀市出身)といった回答があった。そして、④の普段の言葉使いに言い換えた表現としては、関西出身者の中で三四名が、「私、謝ろうと思うねん。」と、文末表現「ネン」を使用した回答をし、関西出身者以外の非共通語話者で回答した者はいなかった。更に、「私、謝ろうと思うんや。」と、文末表現「ヤ」を使用した回答をした者は、関西出身者以外では、徳島県や香川県等の四国出身者が三名、石川県出身者一名の計四名であった。そして、関西出身者で使用すると回答した者は七名であるが、その中で大阪出身者は二名で、他は、兵庫県赤穂市や竜野市や出石町、和歌山県、滋賀県出身と、大阪以外の出身者が目立った。従って、大阪を中心とした関西弁では、文末表現「ネン」の方が「ヤ」よりも優勢ではないかと考えられるのである。

- ① 文末表現「ダ」について、非共通語話者にとっては、「共通語らしい」表現である印象を与える。
- ② そして、それを「関西弁らしい」表現に関西出身者が言い換えると、文末表現「ネン」を使用した者が三七名、

文末表現「ヤ」を使用した者が七名と、「ネン」を使用する方が優勢である。

又、『理想の結婚』で使用された文末表現「ヤ」について、次の例文を取り上げて、実際に使用するか否かを質問した。

あたし、今、世界でいちばんシアワセや。(同P8)

この文末表現「ヤ」に関して、

- ① 実際に使用するか否か。
- ② 使用するとしたら、どのような状況でか。
- ③ 使用しないのなら、どのような表現を耳にした時にどのような印象を持つか。
- ④ 普段話す言葉使いならどうなるか。

という質問を行った。
まず、①のこのような文末表現「ヤ」を使用するか否かについて、

はい 五五名 いいえ 一五名

という結果であった。

この「はい」と答えた五五名の中で、共通語話者は〇名、関西出身の非共通語話者は五十名、関西出身以外の非共通語話者は五名である。又、②のどのような状況で使用するかという質問に対しては、関西出身の非共通語話者では、「日常的に友人等と話す時」といった回答が、全部で三九名あった。更に、関西出身以外の非共通語話者の中でも、「日常的に」といった回答が四名あり、うち徳島県や香川県等の四国出身者二名と石川県出身者一名の計三名は、いずれも、先の文末表現「ダ」に関する調査で、普段は文末表現「ヤ」を使用すると回答した者である。その一方で、「神戸にいる時」（岡山市出身）という回答もあったので、文末表現「ヤ」に関しては、関西出身者にとっても、関西出身以外の者にとっても、「関西弁らしい」表現であると考えられていると言える。しかし、④の普段の言葉使いに言い換えた表現では、「あたし、今、世界でいちばんシアワセやねん。」（大阪市出身、兵庫県西宮市出身）の文末表現「ヤネン」のように、やはり、関西出身者でしか表現できないような回答があった。又、「あたし、今、世界でいちばんシアワセ

やわ。」と、文末表現「ヤワ」と回答した者が二三名あり、その中では、「親に「ヤワ」というように言われた」（兵庫県神戸市出身、宝塚市出身）といった回答もあった。このようなことから、関西出身者の文末表現として「ヤ」が出てくるのは、優先順位では必ずしも高くないのではないかと考えられるのである。

次に、「いいえ」と答えた一五名の中で、共通語話者は三名、関西出身の非共通語話者は八名、関西出身以外の非共通語話者は四名である。又、③のどのような印象を持つかという質問に関しては、関西出身の非共通語話者が、「変な言葉」（兵庫県神戸市出身）とか、「大阪弁のようで何か違う。」（兵庫県芦屋市出身）といった回答をしているのに対して、共通語話者と関西出身以外の非共通語話者との合わせて六名が、「関西弁だ。」という回答をしている。このように、文末表現「ヤ」については、関西出身者にとっては違和感を与えるのに、それ以外の者にとっては「関西弁らしい」という印象を与えることがわかる。更に、④の普段の言葉使いに言い換えた表現に関しては、関西出身の非共通語話者が、「あたし、今、世界でいちばんシアワセやねん。」（兵庫県芦屋市出身）の文末表現「ヤネン」や、「あたし、今、世界でいちばんシアワセやわ。」（大阪市出身、大阪

府枚方市出身」と、先の文末表現「ヤ」を使用すると回答した
関西出身者と同じ回答があった。従って、文末表現「ヤ」を使
用しないと回答した関西出身者は、文末表現は普段から「ヤネ
ン」や「ヤワ」を使用していることから、「いいえ」と回答し
たものと考えられる。つまり、文末表現「ヤ」のみで終わって
しまう表現は、関西出身者にとっては、「ヤネン」や「ヤワ」
に比べると、優先順位が高くないことが、ここからもわかるの
である。その一方で、共通語話者の回答は、「あたし、今、世
界でいちばんシアワセだわ。」(埼玉県出身、神奈川県出身)と、
文末表現が「ダワ」と表現されていることから、共通語話者に
としては、関西弁の文末表現「ヤ」に対応する共通語の文末表
現は「ダ」であるという意識があることがわかる。

この調査からは、次のことがわかった。

① 文末表現「ヤ」について、共通語話者にとっては、「関
西弁らしい」表現である印象を与える。

② 文末表現「ヤ」は、関西弁話者にとっては、「ヤネン」
や「ヤワ」に比べると、それを使用する際の優先順位は
それほど高くない。

又、『さんまのまんま』で、明石家さんまが「共通語らしい」
と意識して発言した「今はこうなっているんだ。」という表現
に関連して、

① 関西弁話者に対して、「今はこうなってるんや。」を自
分なりの共通語に直して下さい。

② 非関西弁話者に対して、「今はこうなってるんだ。」を
自分なりの関西弁に直して下さい。

といった質問を行った。

関西弁話者で、「今はこうなってるんや。」を共通語に言い換
えた表現は、「今はこうなっているんだ。」であると回答した者
は、全部で二三名であった。その一方で、非関西弁話者で、「今
はこうなってるんだ。」を関西弁に言い換えた表現は、「今はこ
うなってるんや。」であると回答した者は、全部で五名であっ
た。そして、「今はこうなってるねん。」や「今はこうなってる
んやわ。」であると回答した者は、〇名であった。従って、関
西弁話者にとっての「共通語らしい」表現は、文末表現「ダ」
であり、非関西弁話者にとっての「関西弁らしい」表現は、文
末表現「ヤ」であると言える。一方、回答としては、無効にな

ってしまうのであるが、関西弁話者が共通語に言い換えた表現で、「今はこうなってるわん。」という回答をした者が、全部で二二名もあった。勿論、設問意図とは外れた回答ではあるが、「今はこうなってるんや。」の文末表現「ヤ」に対して違和感を持って、文末表現「ネン」に言い換えたとも考えられるのである。つまり、関西弁話者にとって、文末表現「ヤ」は「ネン」に言い換えたくなるような表現であることが、ここからも窺えるのである。

この調査からは、次のことがわかった。

- ① 関西弁話者にとって、文末表現「ヤ」に対応する「共通語らしい」文末表現は「ダ」であり、非関西弁話者にとって、文末表現「ダ」に対応する「関西弁らしい」文末表現は「ヤ」である。
- ② 関西弁話者にとって、文末表現「ヤ」は、非関西弁話者が感じるほどには、「関西弁らしい」表現であるとは言えない。

又、『理想の結婚』で使用された、共通語「ダメ」に関西弁の文末表現「ヤ」が接続した、

あたしはダメや。涙が止まらん。

(同 P17)

という表現に対して、次のような質問を行った。

- ① 普段は次の中でどの言い方をするか。
 - (1) あたしはダメだ。
 - (2) あたしはダメや。
 - (3) あたしはアカン。
 - (4) その他
- ② 「あたしはダメだ。」と答えた人に、「ダメや」という表現を耳にした時にどのような印象を持つか。
- ③ 「あたしはアカン。」と答えた人に、「ダメや」という表現を耳にした時にどのような印象を持つか。
- ④ 「その他」と答えた人に、「ダメや」という表現を耳にした時にどのような印象を持つか。

先ず、「あたしはダメだ。」と回答した者は三人であり、総て、共通語話者であった。又、「ダメや」という表現に関して、「関西弁だ。」(東京都出身、神奈川県横浜市出身)という回答があ

る一方で、「うそ関西弁」(埼玉県出身)といった回答もあった。

次に、「あたしはダメや。」と回答した者は、共通語話者〇名、関西出身の非共通語話者六名、関西出身以外の非共通語話者三名の計九名であった。この関西出身以外の非共通語話者は、佐賀県出身、香川県出身、石川県出身であった。

更に、「あたしはアカン。」と回答した者は、共通語話者〇名、関西出身の非共通語話者四八名、関西出身以外の非共通語話者三名の計五一名であった。この関西出身以外の非共通語話者は、三名とも徳島県出身者であった。又、「ダメや」という表現に關しては、関西出身の非共通語話者の一七名が、「共通語と関西弁が混ざっている感じ」や「無理に関西弁を使っている。」等といった回答があり、「関西弁らしい」といった回答はなかった。その一方で、関西出身以外の非共通語話者には、「関西弁だ。」(徳島県出身)といった回答があった。

この「あたしはダメや。」と「あたしはアカン。」については、両方とも使用すると回答した者が、関西出身の非共通語話者四名あった。この中には、「両親が関西出身ではないので、友人には語尾のみが関西弁だと言われる。」(兵庫県芦屋市出身)や「親の前では使用しないようにしている。」(兵庫県宝塚市出身)というように、環境が特殊な場合がある。又、他には、兵庫県

多紀郡出身や明石市出身というように、大阪から比較的離れた地域の出身者であった。これは、先の「あたしはダメや。」と回答した関西出身の非共通語話者の中に、兵庫県明石市出身者や小野市出身者があったことも関連して考えると考えられる。

最後の「その他」と回答した者は、共通語話者〇名、関西出身の非共通語話者〇名、関西出身以外の非共通語話者三名であった。その中では、香川県出身者に、「あたしはイカン。」といった回答があった。残りの二名は、岡山市出身者であるが、両者ともに「あたしはダメじゃ。」と、共通語「ダメ」に中国方言の文末表現「ジャ」を接続した回答であった。しかし、アンケート後に、再度、「イケン」を使用するか否かを調査したところ、使用するという回答があった。この二名は、先の「あたし、今、世界でいちばんシアワセや。」を、普段の言葉使いに直した時の回答が、「あたし、今、世界でいちばんシアワセじや。」と、文末表現「ジャ」を使用する傾向があり、初めの「ダメじゃ」という回答は、関西弁の文末表現「ヤ」に対応する中国方言の文末表現「ジャ」を置き換えたものではないかと考えられる。従って、この事態認知のプロセスは、共通語の文末表現「ダ」に対応する関西弁の文末表現「ヤ」に置き換えた「ダメや」という表現がなされるのと同じではないかと言えるので

ある。又、「ダメや」という表現に関しては、「不自然」という回答と、「関西弁っぽい」という回答とに、意見が分かれた。

この調査からは、次のことがわかった。

① 関西出身の非共通語話者は、「アカン」を主に使用する。

② 共通語の「ダメ」に、関西弁の文末表現「ヤ」を接続した「ダメヤ」という表現は、共通語話者には「関西弁らしい」印象を与えるものの、非共通語話者には不自然な印象を与える場合が多い。

これらのアンケートの結果から、非共通語話者にとっての「共通語らしい」表現は、文末表現「ダ」であり、共通語話者にとっての「関西弁らしい」表現は、文末表現「ヤ」であることがわかった。しかしながら、この文末表現「ヤ」は、関西弁話者にとっては、「ネン」と言い換えたいくなるような場合が多く、実際の関西弁とは、かなりギャップがあるのである。

まとめ

非共通語話者が「共通語らしく」表現しようとする時に、共通語話者が「関西弁らしく」表現しようとする時に、それぞれの人々の持つスキーマの構成要素のどの部分が働くかという問題を、ドラマの脚本や実際のアンケート調査を基に考察してきた。その結果、文末表現というものが、非常に重要な役割を果たしていることがわかった。具体的には、非共通語話者にとっての「共通語らしい」文末表現は「ダ」であり、共通語話者にとっての「関西弁らしい」文末表現は「ヤ」であるということである。しかしながら、共通語の文末表現「ノダ」に対応するとされる関西弁の文末表現「ネン」は、実際には、「ノダ」よりも広い意味領域を持っていたり、共通語話者に「ノ」+「ダ」という組成の意識が強くある為に、共通語話者にとって、関西弁話者のように使用することは、かなり困難であることがわかった。

注

(注1) 当然のことであるが、「関西方言」と総称される方言

の間でも様々な差異が存在する。それらの差異も念頭におきながら、ここでは、「関西方言」と総称される方言として「関西弁」という用語を使うこととする。

(注2) 実際、関西出身で関西から離れた経験のない筆者にとって、共通語の日常会話を耳にすることは、殆どテレビのドラマからである。ここで問題としている文末表現「ダ」についても、その具体的な用法は、自身の言語には存在しないので、ドラマ等から学習して使用している。このことから考えても、その影響はかなり大きいではないかと考えられる。

(注3) 不倫相手の女性には、文末表現「ダ」を使ってもらいたくないという男性作者の言語意識も、それなりに理解はできる。しかし、女性作者の手による『東京ラブストーリー』の赤名リカは、上司との不倫も経験しているという設定である。このあたりも、文末表現「ダ」をめぐる男性と女性との意識の違いを反映しているのではないかと。

(注4) 文末表現の考察とは直接関係ないが、(北川一九九七)では、この後に、次のような記述が見える。

しかしですわね、雑誌で取材を受けるとですわね、毎回、私はナントカでナントカでナニナニかしら、と言っているのです。晋って言いますが、そんなふうにインタビュアーの時にしゃべったことは一度もないのに。

で、セラチェック(雑誌が出る前に原稿をチェックさせてくれる)の時に、「かしら」を他の言い方に変えるのですが、やはり売り出されたそれには、「かしら」となっているのです。

そこからは、「かしら」とするのが、その雑誌の方針であり、今をときめく(か、どうかは知らないけれど、たいていそんなキャッチがついている)女流脚本家である北川さんには、「かしら」と言ってもらわなければいけない!という強い意思が感じ取れて、そうですか、よござんしょう、「かしら」で。と涙をのむのでした。

インタビュアー記事を口語資料として扱う場合の問題点を示唆する内容であると言える。

(注5) これらのセリフを演じる常盤貴子の関西弁は、関西在住の経験があるだけに、全体のイントネーション自体に違和感を感じない。しかし、文末表現が関西弁としてはやや不自然である為に、自然な関西弁のイントネーションで話して文末にみると、逆に不自然な印象を与えてしまう場合があるのである。

引用の出典

- 青柳祐美子『ひとり暮らし』角川書店一九九六年刊(放送は一九九六年十月〜十二月)
青柳祐美子『理想の結婚』角川書店一九九七年刊(放送は一九九七年一月〜三月)
北川悦吏子『オーバertime』角川書店一九九九年刊(放送は一九九九年一月〜三月)
柴門ふみ『東京ラブストーリー・三』小学館一九九〇刊
向田邦子『阿修羅のごとく』新潮文庫一九八五刊(放送は一九七九年一月)
渡辺淳一『失楽園・上』講談社一九九七刊

尚、ドラマのセリフの用例については、実際に放送された作品のビデオ等によって確認作業を行った。

参考文献

- Bartlett, F. C. (一九三二) Remembering. (宇津木保・辻正三(訳)一九八二『想起の心理学』)
足立雅代 (一九八九)「真名本と和漢聯句―『真字寂寥草』の場合―」『国語国文』第五八巻第四号
足立雅代 (一九九〇)『旧本伊勢物語』の成立背景』『国語国文』第五九巻第十号
足立雅代 (一九九三)「中古スキーマ」としての係結―「改作本夜の寝覚」をめぐる近世人の言語意識―』『国語学会平成五年度春季大会要旨』
足立雅代 (一九九四)「『仮名書』一覽並びに漢字索引稿」『国語文字史の研究二』
足立雅代 (一九九七)「和語」と「漢語」―日本語の他言語受容における事象認知プロセスのモデル化の試み―』『甲南国文』第四四号
伊藤正義 (一九七二)「中世日本紀の輪郭―太平記におけ

る卜部兼負説をめぐって』『文学』昭和四七年

十月

遠藤織枝・尾崎喜光(一九九八)「女性のことばの変遷―文末

・コト・テヨ・ダワーを中心に―』『日本語学』

第一七卷第六号

尾上圭介(一九九九)『大阪ことば学』

片桐洋一(一九八七)「中世萬葉擬歌とその周辺」『萬葉』

昭和六二年七月

鎌田良二(一九九八)「関西方言の動向―ダ・ジャ・ヤの

行方―』『甲南国文』第四五号

北川悦吏子(一九九七)「だよ」と「かしら」『毎日がテレ

ビの日』所収

久世光彦(一九九六)『ニホンゴキトク』

定延利之(一九九五)「魔法の教・三」の構想』『近代』

第七八号

真田信治(一九九八)『聞いておぼえる関西(大阪)弁入

門』

陣内正敏(一九九二)「言語接触」真田信治他『社会言語

学』所収

友定賢治(一九九七)「中国―各地の方言生活の特色―」『国

文学解釈と教材の研究』第四二巻 第七号

田野村忠温(一九九〇)『現代日本語の文法I―「のだ」の

意味と用法―』

野田春美(一九九七)『の(だ)の機能』

浜田 敦(一九六三)「漢語」『国語国文』第三二巻第七号

(後に『日本語の史的研究』再録)

藤原亨一(一九六二)『方言学』

渡辺淳一(一九九五)「疑問的肯定語」『風のように・返事

のない電話』所収

付記

アンケートにご協力いただいた『国語学入門』の受講者の方々には記して感謝いたします。